

川崎市視覚障害者情報文化センター 2025 年度事業計画

川崎市内の視覚障害者の QOL(生活の質)の向上を目指し、市内全域にサービスを展開する。

重点項目

- (1) 図書館事業、訓練事業、用具事業を合わせもつ強みを活かしたサービスを行う。
- (2) 見えづらくなった人が早期にセンターとつながるように、市内眼科医院、障害者相談支援センター、リハビリテーションセンターなど、地域資源との連携を図る。
- (3) 相談・訓練については、ここ数年、長期的な訓練よりも短期的な相談ニーズが強い。そのニーズに合わせてスポット的な要望に積極的に応えていく。また、市内全域にスピード感を持って対応できるよう努める。
- (4) 利用者の趣向に加え、川崎らしさの視点を加えた資料製作、資料提供を行なう。
- (5) 点訳・音訳・音声ガイド製作ボランティアの養成に努め、質の高い資料製作・音声ガイドの製作を進める。
- (6) 音声解説付き DVD 映画の体験上映会、ヨガ教室、れきおんクラブ、図書利用者交流会、コンサート、センターまつりなどの文化的イベントを開催する。
- (7) 公共図書館における読書バリアフリー法の推進に寄与するため、市内公共図書館との連携を進める。
- (8) 利用者が、時代の変化に応じた読書環境に適応できるようサポートを行う。
- (9) 災害に備え、飲料水や食料品などを計画的に備蓄するなど、防災・減災対策を進める。

計画

- (1) 資料の閲覧・貸出
 - ① 840 人(個人・団体)の利用登録者に対し、点字図書は年間 310 タイトル、録音図書はシネマ・デイジーを含め年間約 8,000 タイトルの提供を目指す。
 - ② ダウンロードサービスにより点字・録音合わせて年間約 4,400 タイトルの提供を目指す。また、デイジーオンラインを使用して 300 タイトルの提供を目指す。
 - ③ 点字雑誌は年間 200 タイトル、録音雑誌は年間 4,000 タイトルを提供し、総貸出数約 17,200 件を提供する。
- (2) 資料製作
利用者の趣向に加え、川崎らしさの視点を加えた図書選定・映画選定を行い、点字図書を年間 40 タイトル、録音図書を年間 56 タイトル、シネマ・デイジーを年間 10 タイトル製作する。
- (3) 点訳者、音訳者、音声ガイド製作者の養成

- ① 2025年度は音訳者養成講座の開催の年にあたるが、30年以上指導に関わっていた担当者が退いたため、今後の養成講座をどのように行うかを関係者で議論し枠組みをつくる年とする。なお、活動中の点訳者、音訳者を対象としたスキルアップ研修会・相談会は継続して開催する。
 - ② デイジー編集業務を外部ボランティアグループに完全依存しているため、センター内でも製作のノウハウを蓄積および体制を整備すべく、職員の知識習得および編集ボランティアの養成に取り組んでいく。
 - ③ 映画の音声ガイドボランティアを積極的に受け入れ、製作タイトル数の安定化を図る。また既存のボランティアについては、製作過程において丁寧なフォローを行いながら養成を継続する。
- (4) 訓練事業の取り組み
- ① 2024年度からの訓練継続者を含め、40名に歩行、生活、コミュニケーションなどの各種訓練を300回行う。
 - ② 訪問指導や来所指導といった短期間での訓練指導、生活用具・各種機器の操作指導などを延べ640回実施する。
 - ③ 市内ICTボランティアグループと連携をとり、必要な技術サポート、情報提供を行う。
 - ④ 訓練・相談を終了し地域で生活する人たちを対象に、当事者同士の語り場を提供し、情報交換の機会を作る。
- (5) 視覚障害者用具の展示と斡旋
- ① 視覚障害者のための日常生活用具と便利グッズ、最新機器などを展示し、斡旋販売を行う。また、補装具・日常生活用具の制度や申請の方法を積極的に周知していく。
 - ② 訓練担当と連携を密にし、訓練生に様々な用具を紹介することでQOL(生活の質)の向上を図っていく。また、合わせて図書の利用にも繋げていく。
- (6) ボランティアとの連携・協力
- ① 点字図書、録音図書、テキストデイジー図書、音声ガイドをボランティアの協力を得て、製作する。
 - ② センターまつりを市内ボランティア団体、及び川崎市視覚障害者福祉協会の協力を得て開催する。
- (7) 啓発普及について
- ① 新刊情報誌「ぶっくがいで」(偶数月発行)に加え、メールマガジン(月2回)、音声版メールマガジン(奇数月発行)、ホームページで最新の情報をいち早く伝えるなど、広報活動に積極的に取り組んでいく。
 - ② 当センターへの理解を深めてもらうために、各区の高齢・障害担当、病院、地域包括支援センター、障害者相談支援センターなどを対象とした事業説明会を開催する。また、要望に応じて出張説明会を開催する。
 - ③ 小中学校で行われる視覚障害啓発授業への講師派遣に協力する。
 - ④ 見えづらくなった方が、センターに早期につながるができるよう地域の眼科病院、関係施設と連携を深めていく。

- (8) 公共図書館における読書バリアフリー法の推進に寄与するため、市内の公共図書館が障害者サービスを進めることに協力していく。
- ①公共図書館職員向けの研修会を開催し、センターの役割や所蔵するコンテンツを知ってもらう。
 - ②公共図書館と共催で読書会などのイベントを開催する。
- (9) 利用者が、時代の変化に応じた読書環境に適応できるようサポートを行う。
- ①リンクポケットによるサピエ接続ができなくなることに伴い、小型のデジタイゼーション機としてのセンスプレーヤー体験会を少人数単位で実施する。(年6回)
 - ②2025年度は、優先的に現リンクポケットユーザーを対象とし、サピエ図書館への接続をフォローする。
- (10) 文化的事業を開催する。
- ① 音声解説付き DVD 映画の体験上映会を月 1 回 (年 12 回) 開催する。
 - ② 図書を通して利用者同士が交流できるイベントを企画し、年 2 回開催する。
 - ③ ヨガ教室を年 6 回、午前と午後の 2 クラス開催する。
 - ④ れきおんクラブ、CD で聴くクラシック音楽講座、音楽コンサート、落語会などのイベントを開催する。
 - ⑤ センターまつりを年 1 回開催する。
 - ⑥ 中部・北部地域で出張イベントを 2 回ずつ開催する。
- (11) 感染予防、防災、減災対策の推進
- ① 人が集まるセミナーやイベントを開催する際は、会場内の換気に注意する。
 - ② 発災時にセンター内にいる利用者、支援者、職員の安全、安心を確保するため、定期的に防災訓練を行う。
 - ③ 感染予防、災害に備え、マスク、除菌液、飲料水、非常食などの衛生用品・防災用品を計画的に備蓄する。

参 考

2025 年度(計画)

(1) 資料の閲覧・貸出

① 利用登録者数		540 名
(内 新規登録者数)		20 名
② 利用登録団体		300 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)		3,540 タイトル
(冊数)		13,100 冊
蔵書数の変化 (新収書)		70 タイトル
		250 冊
貸出数	点字図書	310 タイトル

	930 冊
(内 他館借受)	(50 タイトル)
	(100 冊)
点字雑誌	200 タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供	
(ア) 蔵書数 (タイトル)	6,700 タイトル
(ア) 蔵書数 (枚数)	6,700 枚
(イ) 蔵書数の変化 (新収書)	300 タイトル
	300 枚
(ウ) 貸出数	
● カセットテープ	5 タイトル
	20 巻
● CD 図書	7,300 タイトル
(内 他館借受)	(5,000 タイトル)
● シネマ・デイジー (含む 音声ガイド)	700 タイトル
● CD 雑誌	4,000 タイトル
(エ) デイジー図書コンテンツダウンロード提供	
● メモリーメディア	4,410 タイトル
● デイジーオンラインサービス	300 タイトル
(オ) 点字データコンテンツダウンロード提供	
● メモリーメディア	10 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	320 件
(2) 資料製作	
① 点字図書の製作数	
(ア) 委託製作数	20 タイトル
	100 冊
(イ) 委託外製作数	20 タイトル
	100 冊
② 録音図書の製作数	
(ア) 委託製作数 音訳	35 タイトル
デイジー編集	55 タイトル
(イ) 委託外製作数	20 タイトル
(ウ) 録音雑誌	12 冊 (1 タイトル)
③ シネマ・デイジー (音声ガイド) の製作数	
(ア) 委託製作数	10 タイトル
(3) プライベートサービス	
① 点字図書の製作数	10 タイトル
② 音声デイジー・テキストデイジー等の製作数	15 タイトル
③ 対面朗読	10 件

(4) ボランティアの養成

① 点訳ボランティア連絡会	2回
② 点訳ボランティア相談会	3回
③ 点訳ボランティア校正者会	2回
④ 点訳ボランティアスキルアップ講習会	5回
⑤ 音訳ボランティア連絡会・スキルアップ研修	2回
⑥ 養成講座のあり方検討会・音訳ボランティア校正者会	4回
⑦ シネマ・デイジー編集者養成講座	6回
⑧ ICT ボランティア団体との連絡会	1回

(5) 訓練事業の取り組み

① 訓練者数	40名・・・300回
(内 新規訓練者数)	10名
内訳 (複数提供あり)	
歩行訓練	20名・・・150回
パソコン訓練	3名・・・30回
ICT 訓練	5名・・・40回
点字訓練	4名・・・50回
生活訓練	8名・・・30回
② 相談者数	300名・・・640回
内訳 (複数提供あり)	
歩行相談	70名・・・140回
パソコン相談	30名・・・60回
ICT 相談	60名・・・150回
点字相談	10名・・・50回
生活相談	130名・・・240回
③ 訓練生交流会	開催数 6回
④ 訓練生屋外交流会	開催数 1回
⑤ 用具の展示と斡旋	展示点数 400点 斡旋点数 1,550点

(6) 啓発普及

① 事業説明会の開催	センター事業説明会	1回
② イベントの開催		
● 音声解説付き DVD 映画の体験上映会	毎月1回開催	12回
● れきおんクラブ (歴史的音源を聴く会)	奇数月開催	5回
● CDで聴くクラシック音楽講座	偶数月開催	5回
● ヨガ教室	5・6・9・11・1・3月 午前・午後の2クラス開催	6回

- 音楽コンサート、落語会など 5月・12月・2月 3回
- 図書利用者交流会（読書会など） 6月・1月 2回
- センターまつり 12月 1回
- 出張イベント 6・9・11・1月 中部・北部地域で各2回開催 4回

③ 広報誌の発行

- ぶっくがいど(偶数月) 6回
 - メールマガジン「アイ eye」(2回/月) 24回
 - 音声版メールマガジン「アイ eye」(奇数月) 6回
- *メールマガジン「アイ eye」の2か月分を再編集して合成音声化したもの